

2018年度レディース委員会主催情報交換会実施報告

- 1 日時・場所 平成30年11月10日(土) 14:00~16:00・日本スポーツマンクラブ
2 出席者 艇種別・外洋・県連・階層別団体関係者、JSAF関係者 計25名
3 議事内容

◎女性競技者・指導者等の現状及び取組

- ・競技者の絶対人数が少ないことは否めないが、大学生は横ばいか増加している傾向もある
- ・卒業後にヨットを続けない人が多く、一度離れるとほとんど戻らないが、国体選手の中には子育てしながらや、子育てが一段落した女性が出場していることも多い
- ・インカレや女子インカレにより女子ペアが実現しトップ選手も出ているが、それに次ぐ人が出てこない現状もあり、オリンピックを目指す人とセーリングを楽しむ人の中間層がいない
- ・学校卒業後に女子が乗ることができる艇種が少なく、レーサーとしては国体を目指して練習したいが、SSでは艇の面でも人の面でもハードルが高すぎ生涯続けられる艇ではない
- ・女性の指導者や運営者が少ないのは参加しやすい環境ではないこともあるが、女性だけではできない運営など、男性に助けをもらいながら活動している
- ・キールボート委員会では卒業する学生との橋渡しの取組を始めている(同意見他2団体)
- ・ジュニア、中、高、大、社会人と縦のつながりがなく、セーラーが育たない

◎女性の普及拡大・発展に向けて目指すべき事

- ・女性が魅力を感じるレースや生涯続けられる艇種の普及
- ・卒業した後の学生や主婦でもヨットを続けられる環境の整備や日頃の練習のためのサポート
- ・一度ヨットから離れた女性が戻るための声かけや広報活動の充実
- ・気軽にレースなどに参加できるような、JSAF会員制度の見直し
- ・できることまで男性を頼りすぎない女性の意識改革

◎情報交換会を終えての参加者の感想

- ・40年経っても悩みは変わってない。今後もこのような会をもてればよいと思う。
- ・今日の課題は女性だけのものではなくセーリング全体のもので、レディースと特別に扱わなくても良い。(同意見他2名)チャイルドルームはとても役に立っている。国体にスナイプ復活を。
- ・様々な立場の現状が分かり意見交換や課題の共有化ができとても良かった。(同意見他4名)
- ・今後の具体的な目標を掲げていくのもよいのではないかと思う。
- ・男女を問わず一度離れた人が戻りやすい環境整備やメディアの活用、会員のハードルを下げ普及の拡大などが大切だと思う。声かけや何らかの受け皿になりたい。
- ・幅広い年齢で乗れる艇で活動しているので、引き続き声かけしていきたい。男性にも助けをもらいながら女子のレースを増やしていきたい。
- ・女性が続けられる環境や続けられる艇種が少ない事が一番の課題だと思う。声かけが大事。
- ・女性が今後も活躍できる場を考える良い機会だった。年齢を重ねても楽しめるスポーツなので、環境を整えて声をかけていきたい。
- ・課題はどの団体や艇種別団体でも同様であった。(同意見他4名)女性の課題をクリアするには様々な方面での意識改革が必要だと思う。JSAFが中心となって課題解決を進めて欲しい。
- ・五輪が終われば不景気になりセーリング競技も低迷すると思う。国体もそろそろブロック予選などスリム化を図ったらどうか。
- ・縦(年代)、横(他県連、他艇種)のつながりやコミュニケーションを大切にしていこう。

◎会の概要

出席者に三つのグループに分かれてもらい簡単なKJ法を用いて「女性セーリング界の現状や課題」について自由に討議した。初対面同士の方も多かったが白熱した議論が聞かれ、日頃から漠然と抱いていたそれぞれの思いがみんなでも共有できる共通の課題であることが再確認できた。欠席の団体から事前に送られた資料も、グループ討議の場で紹介した。初めての試みではあったが、参加者には好意的にとらえていただき「次回も是非」という声も聞かれた。残念ながら、見えてきた課題に対しての今後の展望については十分に意見を交換する時間がなかったが、今後の課題としたい。

最後に中川副会長に「今後も女性セーラーや指導者の育成にみんなで行きたい。」というご挨拶でまとめていただき散会となった。